

「新型コロナウイルス感染症下での学生の生活実態に関するアンケート」結果報告

調査の目的について

本調査は、北海道教育大学釧路校に在籍する学生が、新型コロナウイルスの感染拡大が続くなかで、1) 現在どのような生活状況にあり、どんな困りごとや不安感を抱えているか、その実態を把握する、2) 学生がどのような支援ニーズを有しているかを把握し、釧路校におけるより効果的な学生支援の方策を検討する、3) 調査結果を公開し、地域社会に学生支援への参加・協力をよびかけるための基礎資料を作成することを目的に行われました。

調査の概略

調査対象：2021年6月14日時点で本校に在籍する学部学生・大学院学生 788名 (休学者・留学者を除く)

調査期間：2021年6月14日～2021年6月21日

調査方法：インターネットを利用したウェブ・ベース方式

調査項目：11項目34問【学年・住居形態・課外活動の参加・奨学金の受給・仕送りの有無・アルバイトの状況・経済的困難・大学生活の悩みごと・相談できる関係や場所の有無・支援にかかわる大学への要望等】

回答総数：417 (6/21 最終締切時点) 有効回答数 400 回答率 50.8%

●本学学生をとりまく状況

学生の9割は、アパートでの一人暮らし、学生寮、下宿生などの形で、親元から離れて生活をしています。

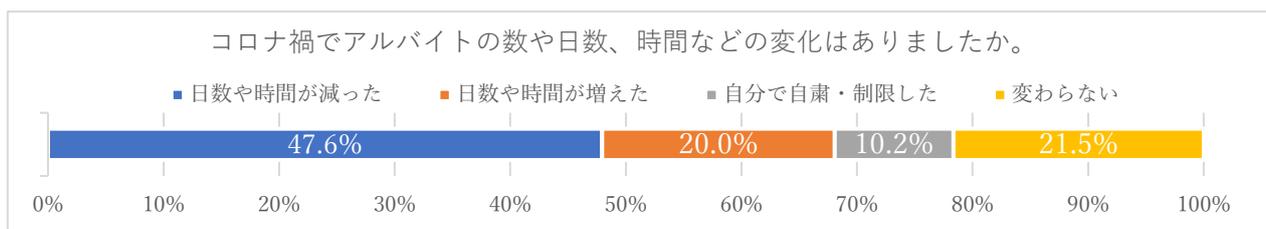
6割弱の学生が奨学金を受給しています。奨学金の用途として7割弱の学生が「生活費」と回答し、「学費の全部または一部」「学業に関わる費用(教科書購入や印刷代など)」との回答を上回りました。

学生の6割は実家からの仕送りを受けていますが、4割の学生は仕送りが無い状況です。

●学生アルバイトの状況

こうした状況から、多くの学生が学生生活を維持するために、アルバイトに従事しています。

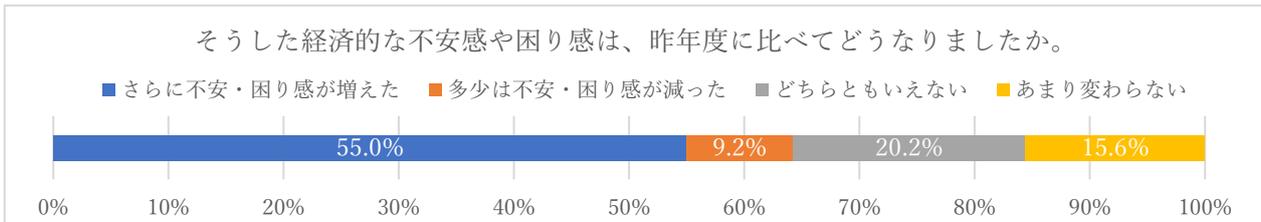
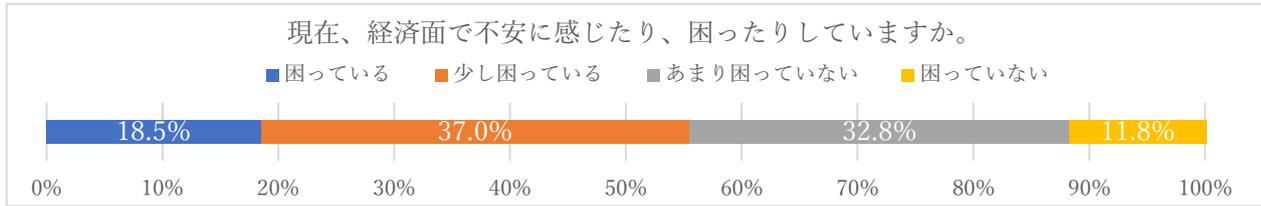
今回の調査では、アルバイトをしている学生の約4分の3が、働く時間・日数の減少や自粛による就労制限を経験したと回答しています。また同じく約4分の3が、アルバイトの収入が減少(ないしは不安定化)したと回答しています。



## ●経済面での不安

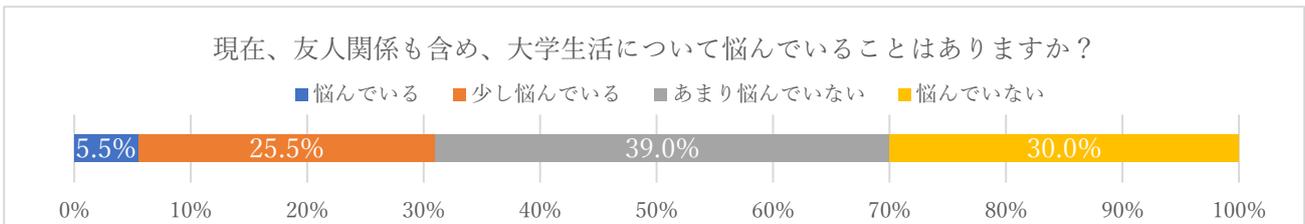
6割近い学生が「経済的な不安」を感じていると回答しています。

その半数以上の学生は、こうした不安感が「昨年度に比べて増加した」と感じています。



## ●学生生活上の悩み

学生生活で悩みを抱えていると回答した学生は3割ほどでしたが、そのうちの6割は、こうした悩みが昨年度に比べて「増えた（深刻になった）」と回答しています。



## 本プレスリリースに関する問い合わせ

本プレスリリースでは、学生生活の実態について、特に重要と思われるデータを中心に紹介しております。調査の詳しいデータや詳細な調査結果については、下記担当教員までお問い合わせください。

北海道教育大学釧路校 木戸口正宏 電話 0154-44-3379 / Email [kidoguchi.masahiro@k.hokkyodai.ac.jp](mailto:kidoguchi.masahiro@k.hokkyodai.ac.jp)

また釧路キャンパス学生応援プロジェクトに関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

北海道教育大学釧路校 総務グループ 電話 0154-44-3214 / Email [kus-somu@j.hokkyodai.ac.jp](mailto:kus-somu@j.hokkyodai.ac.jp)

○釧路キャンパス学生応援プロジェクト 専用ページ

<https://www.hokkyodai.ac.jp/kus/general/ssproject.html>

こちらから↓

